

よい発問とは

閉じた発問と開いた発問

「よい発問とは、よい答えにまさる」と言われます。ところが、子どもたちからうまく意見を引き出すことができない、一部の子どもと教師との一問一答式になってしまうなど、発問に関する悩みはつきません。よい発問とはどのようなものなのでしょう。

発問には「閉じた発問」と「開いた発問」があると言われています。次の2つの発問を比べてみます。

- ① 僕はちょうを盗んだのですか。
- ② 僕がちょうを盗んだのは、なぜですか。

「閉じた発問」とは、イエスかノーで答えられるもの、または答えが一つしかないものです。これは、授業にリズムやテンポを生み出すことができます。しかし、これだけでは子どもたちの思考を刺激するものにはならず、授業が単調になってしまいます。これは発問ではなく質問というべきでしょう。

「開いた発問」とは、なぜ、どうして、どのようにしてなどを問うもので、答えは一つとは限りません。②は、僕がちょうを盗むに至った状況や心情まで考えさせるような問いになっています。

よい発問の条件

- (1) よい発問は、深い教材研究によって生み出される。
 - (2) よい発問は、子どもたちの反応に即座に対応し、指導の過程で磨かれなければならない。
 - (3) よい発問は、よい学習者によって支えられる。
- その他の留意点として、以下のことが挙げられます。
- (4) 適切な声量と明瞭な発音
 - (5) 話す速度、言葉の調子と抑揚、間の取り方、豊かな表現
 - (6) 発達段階に合った適切な言葉遣い
 - (7) 子どもたちのよいモデルとなる話し方

文学的文章読解のための20の観点から発問をつくる

- | | |
|------------------|--------------|
| ① 時（時代、季節、一日のいつ） | ⑪ 対比 |
| ② 場所 | ⑫ 場面 |
| ③ 登場人物 | ⑬ 構成（起承転結） |
| ④ 主人公 | ⑭ クライマックス |
| ⑤ モノ（物、建物） | ⑮ 要約 |
| ⑥ 色 | ⑯ 主題 |
| ⑦ 音・声 | ⑰ 題・見出し |
| ⑧ 数（個数、長さ、距離、日数） | ⑱ 象徴 |
| ⑨ 心・心情・性格・人柄 | ⑲ 不思議・疑問・不整合 |
| ⑩ 話者（位置、視点） | ⑳ 予想・予測 |